

五島市図書館友の会だより

第 21 号(2021.12 月)

I ターンです

問答形式で語っていただきました

問；どこに住んでいますか？

答：岐宿町川原に居ます。

令和元年 5 月から北海道より移住してきました。

問：移住してきた理由は？

答：主人（元教師）が 5・6 年前に修学旅行の引率と

して五島に来たのがきっかけです。特に民泊家庭

の子どもへの対応が良かったとのこと。

定年後、移住先を探してあちこち廻りました。五島にも 1 年に何度も下見に来ました。

その結果、主人が「五島に行くよ！」と声を上げ、ついてきました。

梅雨、猛暑、台風を体験せずに来ました。

問：五島に来ての感想は？

答：5 月に移住して、その年の 9 月はじめレベル 5 の大型台風がきて恐怖でした。

自宅の裏の川の水の増え方が急激で、避難所情報もなく恐かったです。

有線も雨の音で全く聞こえませんでした。



■ 夏をはさんで季節が2回変わるので作物を作るチャンスが北海道と比べて恵まれていると思いました。海と山が近く両方楽しめるのも魅力です。

現在、地域の農業法人で農作業に従事しています。草刈機を使うのは面白い。

広い斜面を刈っていると‘お宝’がいっぱいあります。春先はタラの芽、ツワ、露、セリ、クレソンなど。花もアケビ、クサギ、レンゲ、ムベ、アブラキなどを見ることができます。

秋口はグベ、桑の実、椿の実を収穫するのも楽しみです。葉が落ちツルが目立ってくると、捕り、リースなどを作ります。百合の花などでドライフラワーも楽しめます。

■ 地元の岐宿小学校に月に一度、子どもたちに「絵本の読み語り」に行っています。

子どもたちは壁が無く、会う事が楽しみでワクワクします。子どもたちから気軽に声をかけてくれ、それが嬉しいです。私が子どもたちに読みたい本と、子どもたちが楽しんでくれる本が違うので選書にひと苦労します。

読むときの本の持ち方、読み方、間の取り方、ページのめくり方など基本をもう一度学べて良かったです。小学校に行くようになって月一回の緊張感が心地よいです。

問：五島の人に伝えたいことは？

答：地元（地域）のものを大事にしながら、柔軟に他地域のものも受け入れてほしい。

例えば、田園風景、海岸線、河川の生物・方言・食べ物（切り干し大根やカンコロ）

問：図書館に想うことは？

答：今、思えば、北海道の生活圏では図書館が充実していたと実感しています。

スマホが中心の社会ですが、検索をするときの語彙・言葉などを知るためにも、わからないことがあれば図書館の職員に聞き、調べる方法を学べるのが図書館、また国立国会図書館に地域の図書館は繋がっていることも知りました。図書館の資料をもっともっと活用したいと思います。(11/27 勉強会「新図書館の可能性を学ぶ」の感想でもあります。) 図書館に気軽に遊びに行きましょう。

福島 まゆみ (図書館友の会会員) リレーエッセイ 20

アートの広場 展示紹介

図書館ホームページより

令和3年7月～8月

『俳句と絵』

長谷静寛・長谷セツ子夫婦展」

展示をしてくださる方を募集しています。

図書館 (72-6900) か

役員・市川 (090-9723-8793) まで





蘭子さんのおすすめ絵本

その5

絵本は一生の友達です

『二番目の悪者』 林 木林著 小さい書房

立派な金のたてがみを持つ金のライオンは次の王様になりたくて、評判の高い心やさしい銀のライオンは乱暴者だと嘘をつきます。最初は聞き流していた動物たちはやがて信じていきます。

銀のライオンは何も言わず、金のライオンは王になりました。

やがて国は荒れ果てます。ネズミは思います。「僕は聞いた話を、友だちに教えただけ。でも何か一つでもたしかめたっけ」この一部始終を見ていた雲の言葉がとても胸を打ちます。ズキンときます。

『二平方メートルの世界で』 前田 海音著 小学館

入退院を繰り返す前田 海音ちゃんは、ベッドの上の小さな世界で孤独と向き合います。ある日、テーブルの裏側に書かれた様々な言葉を見つけます。その言葉は海音ちゃんに一人じゃないよ、と語りかけます。



今までたくさんの言葉を飲み込んできた海音ちゃんは
言葉をテーブルの裏ではなく心に刻み込んで誰かに届くかも
しれないと、この絵本を9歳の時に書きました。

図書館友の会会員 武藤 蘭子



勉強会報告（主催・子どもの本ネットワーク協議会 五島っ子）

「新図書館の可能性を学ぶ」（骨子）

11月27日図書館にて開催されました。参加者は25名。講師は渡邊 斉志長崎県立図書館長。

● 図書館の活用法

・求めている本が五島市立図書館（以下、図書館と述べる）にない時、他の図書館や県立図書館から借りたり、コピーを取り寄せることができる。（図書館を通じて。司書への相談を経ながら）

・イベントや図書館内の展示から、知的な刺激を受ける。

・図書館の使い方を覚えると全国の図書館の使い方を覚えることになる。全国共通の為。

● 図書館の将来像

・電子書籍について

国内で出版される本は約 14 万点。電子書籍になっているのは約 3 割。(コミックが多い。

今後は紙で出版されない本が増えていくかもしれない。

- 地元に関する本や資料を集めることは図書館の大事な役割である。
- 統計によると長崎県民は総じて勉強しない！？
- 今後、情報を手に入れ使いこなす能力が重要である。そのためには
 - ① インターネットでの検索語を思いつく力
 - ② インターネットの限界の見極め
 - ③ 文献を探す技術

つまり、必要なのは「情報を探すテクニック+知識・教養」

結論として・図書館利用方法の習熟・図書館利用を通じた実践・知識/教養の蓄積(図書館も活用しつつ)

- ・紙の本の比重は今後徐々に低下してゆくと考えられるが、たとえそうであっても「情報を手に入れ使いこなす能力」は必要→「高い能力を持った人材を多数輩出できる地域」と「排出できない地域」の差をもたらすものは、決して小さくないはず。

第 25 回読書会報告

11 月 17 日 図書館にて開催されました。参加者は 3 名。課題本は『金子 みすずの詩』

出された主な意見

新聞などに載っている詩は読むが、詩集として読むのはとっつきにくい

みずずさんの詩は見やすい、読みやすい、わかりやすい

小説はストーリーがある。
詩はセンテンス、センテンスに力がある。

新図書館建設ニュース



新図書館の模型が図書館1階にあります

定例会のご案内

新聞切り抜きの掲示や、図書整理など簡単な作業をします

第26回「読書会」のご案内

令4年2月16日（水）午前10:00～ 図書館3階

編集後記

最近、住まいの岐宿から図書館へ行くとき、ちょっと面倒ですが新図書館建設の工事現場の横の道を車で走ります。何とも言えない“よろこび”が充満します。 K/S